

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

1980年代に屋久島に導入されました。県本土では在来種として生息しています。鹿児島県では重要防除種に指定されています。在来ほ乳類(ネズミ類)、鳥類、昆虫類が捕食され、ウミガメの卵の捕食も確認されています。また、人畜共通感染症を媒介するおそれがあります。屋久島では防除を進めています。また、屋久島以外の島嶼にはまだ侵入・定着が確認されていません。もし、島嶼でタヌキを見かけたら、至急、県自然保護課か市町村にお知らせ下さい。早めの連絡が捕獲の成功、定着の防止につながります。

1 基本情報

分類	
目・科名	ネコ目イヌ科
種名(亜種名)	ホンドタヌキ
学名	<i>Nyctereutes procyonoides</i>
環境省カテゴリー	重点対策外来種
県カテゴリー	重要防除種
由来	県内由来外来種
侵略的外来種番付表	前頭(島嶼)
番付表掲載の理由	県内由来外来種
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—
侵入・定着の状況	
自然分布域	ベトナム北部、中国東部～東北部、モンゴル東部、ロシア南東部、サハラ、日本列島
県内初報告	1980年代に導入された
県内への侵入の経緯	公的な導入ではなく、個人の飼育個体の遺棄
県内の侵入分布	屋久島
全国の侵入分布	知夫里島(隠岐諸島)、屋久島に導入されている 屋久島では、低地全体に分布を広げている
生態学的特性	
生態	食性は雑食性で、小型哺乳類(ノネズミ類)、鳥類、昆虫類、野生果実を食べる。 親子あるいは家族が近い距離に集まり行動する。特定の場所に集中して排泄するため糞を行う。これには、個体や家族集団間のなわばりを識別する役割があると考えられている。
形態	頭胴長50～60cm、尾長15cm、体重3～5kg。全身白毛が少しまだらに入った灰黒色。尾はふさふさし、目の周囲には黒毛の濃いパンダ模様がある。
繁殖形態	交尾期は2～4月で出産期は5～6月。産子数は1～8頭で、平均4～5頭。
生息環境	郊外の住宅地周辺から山地まで広く生息。
特記事項	県本土では在来種として生息しています。



2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来ほ乳類(ネズミ類)、鳥類、昆虫類の捕食。特に屋久島では、ウミガメの卵を捕食。 ③人畜共通感染症の媒介。
県内で特に予想される被害	島嶼における在来ほ乳類(ネズミ類)、鳥類、昆虫類の捕食。屋久島でのウミガメの卵の捕食。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②飼われていたものの遺棄。
3 対策	
ホンドタヌキを見つけたら	屋久島では防除を進めています。また、屋久島以外の島嶼にはまだ侵入・定着が確認されていません。もし、島嶼でタヌキを見かけたら、至急、県自然保護課か市町村にお知らせ下さい。早めの連絡が捕獲の成功、定着の防止につながります。
見分け方	ホンドタヌキは、他のイヌ科の種に比べて四肢が短く、ずんぐりした体をしている。接地する後ろ足の指は4本である。イタチ科の足の指は5本であるため、足跡で区別ができる。
見かけやすい場所・時間	主に夜間に活動する。屋久島の低地全体で多く見られる。
防除方法	アライグマ防除で使用するものと同様の箱わなにより捕獲可能である。
防除の取組事例	屋久島では、有害捕獲が進められている。
その他	—
参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10310.html Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ PRO NATURE FUND 屋久島に移入されたタヌキの定着化の過程 http://www.nacsj.or.jp/pn/houkoku/h11/h11-no01.html